



VOL 17

2008年11月号

発行 2008年10月29日

日本山岳会 山岳地理クラブ

URL www.jac.or.jp/doukoukai/

## 拉致された測量官

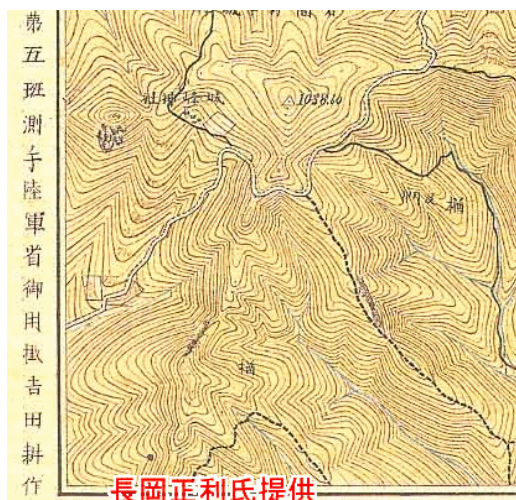
遠山元信

今から 125 年前の明治 17 年 11 月 1 日未明、埼玉県秩父郡にある城峯山(1037・7m、一等三角点)直下の城峯神社から、陸軍省の測量官が就寝中に拉致される事件が発生した。拉致したのは世に有名な秩父事件の暴徒らであった。

『秩父事件史』(浅見好夫著)の「陸軍測量師拘引」によれば、拉致は秩父事件首謀者の田代栄助による指示で、刀や鉄砲を持った暴徒七人が城峯神社で就寝中の陸軍省御用掛吉田耕作らを襲った。吉田御用掛は「小官ヲ暗夜二招クハ甚ダアヤシ、……其仔細ヲ承知セシ上招待二応ズベシ」と用件を聞こうとしたが、「先生ヲ誘ヒ来レトノ命ヲ受ケタル者ナレバ……若シ否ムニ於テハ事二及ブベシ」となり、神官、従者二人とともに従わざるを得なかった。そして首謀者の田代と面会する場所まで連れて行かれ、途中で測夫一名を帰還させることに成功、田代は吉田御用掛を丁重に上席に迎え、昨日からの無礼を詫び、事件の概要を説明、「吾党二八軍事ニ馴レタル人物ニ乏シク、差向キ先生ヲ推シテ総指揮役ニ」と要請した。陸軍という名称から測量官が武官かどうかも考えずに拉致してきて総指揮役を依頼したようで、吉田御用掛はあくまでも拒否の態度をとったことから田代も諦め直ぐ釈放し、午後7時頃までに神社に戻った。翌早朝、吉田御用掛らは群馬県鬼石町に向って引き上げることにし下山、午後二時頃鬼石町の宿屋三嶋屋に到着した。そこで荷物を調べたところ西洋紙と半紙並びに飲食物、幾何法写図と作業済道線手薄紙、数十枚を奪われたと、明治17年12月13日付けの陸軍省官房長から埼玉県警部長宛での報告書に記録されている。

この拉致の顛末はこれで終わりであるが、明治 17 年 11 月という年月と陸軍省の測量官ということから二万分の一迅速測図の測量かと予想していたところ、日本山岳会会員で元国土地理院の部長をされた長岡正利氏が

ら城峯山が含まれている迅速測図のコピーの提供があり、その枠外に測量担当者の名前として「地形測量第五班測手陸軍省御用掛吉田耕作」と名前が記録されていた。ここで初めて秩父事件の時の測量官拉致事件は迅速測図の測量に来ていた人である事に結びついた。この測量官の拉致は秩父事件のちょっと詳細な文献等には必ず紹介されているが、それが迅速測図の測量かどうかは歴史関係には紹介されておらず、一等三角点、標石、地図関係の資料にも、まったく記録されていないようである。ちなみに内務省の雲取山原三角測点設置は、この秩父事件以前である。



長岡正利氏提供

さらに迅速測図一覧表を見れば判るように群馬県側から南下して延びていた迅速測図の図面が、この城峯山が含まれる図面でストップ、ここより南側の迅速測図は記録されていない。迅速測図は明治 19 年で中止となるが、中止まで少し時間があるため何故ストップしたのか気になっている。秩父事件は約 4000 名が処罰されたと言われており、城峯山から南側が事件関係者の地域になるため、陸軍省でも治安等を考え測量を中止したのだろうか。現時点では判らない。将来への課題としたい。(遠山 08/10/1)

## 連載 ゆにーく 標識&標石 姫路城内の三角点



城は周囲より高いところが多く、それは平地における三角点設置に適地であった筈である。調べてみれば皇居を筆頭に、山形、名古屋、金沢、大阪、姫路、和歌山、徳島、松山、熊本などの城内に三角点が存在する。

その中で昨年姫路城に行った際、拡大した地形図のコピーを片手にウロウロしていたら拳動不審者と間違われガードマンが二人飛んできた。そこで三角点を探している旨を話したところ許可が必要との事。念のためどこにあるのか質問し撮影してきたのが、ここで紹介する写真。運がよければ蓋を開けて標石を撮影する時間的余裕はありそう。(遠山記)

行って来ました 第5回読図山行  
フランスの山へ行ってきた気分!!

鶴田泰子

日川の土砂崩れや、雨でのびのびとなり3度目の正直で決行となった源次郎岳～恩若峰の読図山行。9月27日(土)、昨日までのぐずぐず天気をふっ飛ばし爽やかな天気に恵まれ、気持ち良い出だしとなる。塩山に近づくにつれ、車窓に迫り来るブドウ畑の実りが心をおどらせた。この時北野リーダーの頭に、ワイナリーのオーナーである JAC 山梨支部長古屋氏が浮かんだ。しかしこれが、今日の山行がフランスの山へ行って来たようなゴウジャスな気分で閉められるとは想像だにできなかった。

塩山駅に全員集合したのは9:15。北野、今井、高橋、井上夫妻、鶴田の6人は2台のタクシーに分乗し、勝沼カントリーコース入口の先の果樹園まで行く。9:45 果樹園農家の庭を通らせてもらい、源次郎岳に突き上げている北洞沢と鬢櫛川に挟まれたキリガ尾根に取り付く。いきなり三角点772m迄標高差100mのきつい登りを蜘蛛の巣を払いながら登る。踏み跡は何とか判るほどにある。南北正確な4つの丸石に囲まれた4等三角点を観測する。ここからは長い尾根ではあるが、測量杭があったり手入れが施された尾根で、明るく思ったより歩き易い。くぬぎ、檜、針葉樹の雑木が程よく生え、地図読みには大変変わり易い尾根が見透せる楽しい登りである。時々栗拾いを楽しむ。2時間ほど登ったところで先頭の北野さんが落ち葉に隠れた木株につまずき、丁度良い時間だからそのまま昼食とする。心地良い雰囲気ですべてを済ませた頃、怪しき黒と黄色の縞々スズメ蜂がブーンブーン！偵察隊が2～3匹我々を取り囲んでいる。恐怖を感じそーっとその場を立ち去り難は逃れたがこの先何回か休憩の際にブーンブーンに恐怖を感じさせられた。以前スズメ蜂に刺され、抗体のある北野さんには本当に危ないところだった。一人で何やらインドネシア語で「????、…」と小さく唱えて、そーっとその場を立ち去る方法が功を奏したのだろう、残された我々がその行動を理解するまでかなりの時間を要して戸惑ったことに気がついてない様だった。何はともあれ無事でよかった。

源次郎岳の姿がカッコよく目に入ると間もなく恩若峰への分岐に出る、12:50。源次郎岳を往復すると山で暗くなってしまいそうなので、次回の楽しみにして北西へ方向転換して恩若峰に向かう。北側はかなり崩れているが広くだらだらとした尾根が続く。地図と地形が一致して納得できる地図読みが出来た感じ。恩若峰から300m位のところより尾根から外れ急斜面を下萩原方向へ下る。絶え間の無い蜘蛛の巣払いをし続けながら藪に近い道を1時間ほど歩きやっと果樹園に出ることが出来た。



ここで遅いと思ったが古屋さんのワイナリー原茂園へ をしてみる。“どうぞお待ちしてます”の良い返事、

嬉しくなつてすぐタクシーで原茂園へ。白髪の優しいような古屋さんが快く迎えてくださり、ぶどう棚の下でゆっ



たりと美味しい蔵出しワインや多種の珍しい葡萄をご馳走になり、古屋さんの若きスキー選手時代の話などで盛り上がり日が暮れてしまった。あわ

てて葡萄とワインのお土産を買い勝沼の駅まで車で送っていただく。あまり新しくないこの車、ドアを開けたまま発車、運転している古屋さんはすまし顔、我々は振り落とされないようにつかまって足を踏ん張る。原茂園の敷地を出る寸前で急ブレーキがかかりドアがガッシャンと閉まった。古屋さんの茶目っ気に緊張していた我々は思わず大笑い。楽しい山行の締めとなる。ほろ酔い気分フランスの山へでも行って来たような心地で帰途に着いた。コース キリガ尾根取っ付 9:45 - 772,9m10:20 -1180 峰 -11:40 - 分岐 12:50 - 13:30 - 1050m 峰 -恩若峰 14:30- ミツ沢乗越- 果樹園 15:40 実働時間5時間 (2008,10 鶴田)

図書、資料の紹介

山特集・ワンダーフォーゲル主義 雑誌 BRUTUS 2008/11/1 号 普段馴染みの無い男性ファッション誌、車内吊り広告にあったのでつい買ってしまっただが、ジョン・ミューア・トレイルにちょっと興味、たまには視点を変えて山を考えるのも一興(kon)

例会の議事録

2008年10月1日(水) 19:00～20:00 於JAC集会室B

出席者9名(北野、平野、遠山、鶴田、鶴田、高橋、大西、川口、今井(順不同))

今回は 通常の定例会前に17時から201号室において整理が終了した旧地図の見学会を行った。

内容:1. 直近の会山行報告として山梨県塩山東方源次郎岳からほぼ西に延びるキリガ尾根から源次郎平經由恩若峰方面読図山行報告(高橋) 2. 英国王立地理学協会から表彰を受けた中村保会員の東チベット調査報告会出席報告(北野) 3. 新入会員オリエンテーションが10月25日に行われる。AGC会員募集案内に北野、平野が出席する。(北野) 4. 国土地理院関連の調査協力は決定ではないが、その方向で進む模様。(北野) 5. 次回の会読図山行は奥多摩高水三山周辺の沢を提案する。(北野)

終了後は「鯨の家」にて懇親会(8名(高橋会員は都合で不参加)、以上 (記録:今井)

お知らせ

次回の例会

日時 11月5日(水) 18:30から 於:山岳会 ルーム  
テーマ:山行報告(読図山行、須坂基線山行)ほか

編集後記 毎度ながら原稿宜しく(kon)

AGC レポート vol-17 2008年10月29日発行  
発行:日本山岳会・山岳地理クラブ(代表:北野忠彦)  
〒102-0081 東京都千代田区四番町5-4 日本山岳会 気付  
TEL 03-3261-4433 FAX 03-3261-4441  
編集担当:近藤 E-mail:hikarikon@nifty.com